

近畿中国森林管理局 林業事業体意見交換会

# これからの林業と 近畿中国森林管理局の取組

2017年2月23日

近畿中国森林管理局  
森林整備部長 高井 秀章

## 本日の内容

- 新たな基本計画に見る政策の方向
- 林業が目指すべき方向
- 近畿中国森林管理局の役割、現状、取組、課題、今後の対応

# 新たな森林・林業基本計画の方向

## 課題・情勢変化

- 施策の評価、目標の進捗
  - ・ 森林資源の充実(50億m<sup>3</sup>)
  - ・ 育成複層林への誘導の遅れ
  - ・ 木材供給量25%増加(H26:24百万m<sup>3</sup>)
- 課題
  - ・ 川上:国産原木の安定供給
  - ・ 川下:製品供給における品質性能の確保
- 情勢の変化
  - ・ 川上:森林資源を活かした地方創生の機運
  - ・ 川下:CLT、木質バイオマスの利用など需要拡大のきざし

## 対応の方向

- 資源の循環利用による林業の成長産業化
  - ・ 育成単層林における先行的な路網整備、再造林対策
- 原木の安定供給体制の構築
  - ・ 施業集約化、主伐・再造林対策の強化、川上・川下のマッチング円滑化
- 木材産業の競争力強化と新たな需要創出
  - ・ 競争力強化:無垢乾燥材、集成材、横架材の利用促進
  - ・ 木材需要創出:CLT等の開発・普及、被住宅分野での木材利用、木質バイオマス利用
- 林業、木材産業の成長産業化による地方創生
- 地球温暖化対策、生物多様性保全への対応

3

## 目指すべき「これからの林業」とは？

- ・ 森林が健全・適切に維持・管理される
  - － 森林生態系が産み出す便益を享受し続ける
    - ・ 土壌の保全と水資源のかん養
    - ・ 生物多様性の保全
    - ・ 炭素の吸収源、貯留による気候変動の緩和
- ・ 「産業」として持続的、自立的に経営される
  - － 投資が利益を産み出す
    - ・ 1サイクルの収入が支出を上回り利潤をもたらす
    - ・ 再生産ができる →持続可能な森林経営
    - ・ 森林の経済的ポテンシャルを活かし切る →バイオマス、森林ツーリズム、etc.
- ・ 「魅力ある業種」としての林業
  - － 高い労働生産性
    - ・ 高いスキルと経営感覚を持った従事者の育成
    - ・ 高性能な機械、先端技術、従事者の能力を活かしきる
  - － 低い労働強度、高い水準の労働安全衛生環境
    - ・ 徹底した機械化
    - ・ 労働安全衛生への意識向上

4

# 「これからの林業」における国有林の役割

- 社会的責任を有する大規模山林所有者として
  - 個別の森林に特有の公益的機能の発揮が求められる森林
    - 天然林、複層林、長伐期 etc. →目的とする公益的機能の発揮に適した森林
  - 産業的に経営すべき森林
    - 単層林、複層林 →林業のサイクルが経済的利益を創出
  - 産業的な経営が困難な森林
    - 複層林/混交林→天然林へ →コストをかけずに安定した生態系を維持
- 公的な経営体として
  - 民間資本ではできない先導的技術の試行と普及
  - 事業実施におけるスケールメリットや公平な競争環境の提供、透明性、計画性の高い事業運営及び技術情報や労働安全に関する情報の提供を通じた優秀な林業事業体の育成
  - 民国連携による森林整備や路網整備を通じた効率的な施業の推進
  - 政策的な視点を取り入れたシステム販売の推進を通じた川下産業の育成
- 国の林業所管省庁の出先機関として
  - 府県、市町村の森林・林業行政との連携と支援

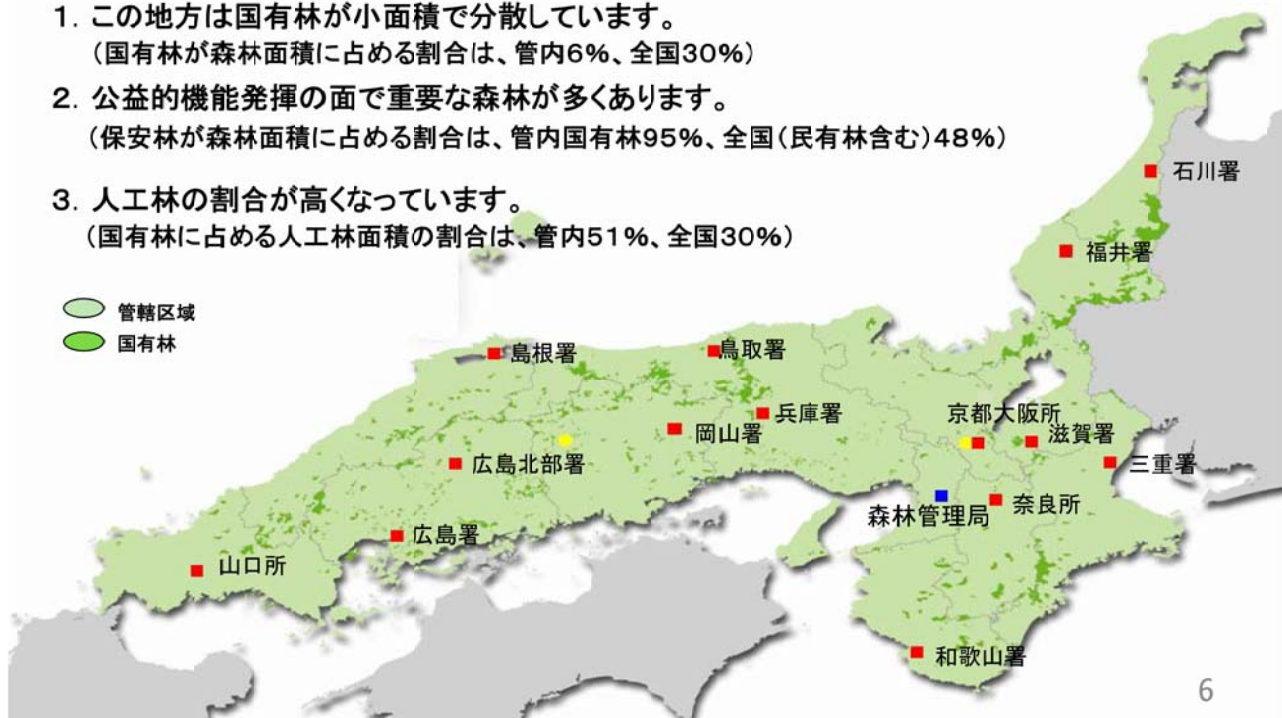
5

## 近畿中国森林管理局の管内概要

近畿中国森林管理局は、2府12県を管轄区域とし、約31万haの国有林を管理経営しています。

### 特色

1. この地方は国有林が小面積で分散しています。  
(国有林が森林面積に占める割合は、管内6%、全国30%)
2. 公益的機能発揮の面で重要な森林が多くあります。  
(保安林が森林面積に占める割合は、管内国有林95%、全国(民有林含む)48%)
3. 人工林の割合が高くなっています。  
(国有林に占める人工林面積の割合は、管内51%、全国30%)



6

# 林業の自立・成長産業化において 国有林が直面する課題とこれまでの対応

- 立木価格のアップ
  - 林業専用道の整備
- 育林経費のダウン
  - 列状間伐の徹底
  - 植付本数の削減
  - コンテナ苗による一貫作業システムの導入
  - 下刈回数の削減
- 林業事業体の育成と経営安定化促進
  - 請負事業の複数年契約の導入
  - 翌年度の事業量の公表

7

## 国有林の経済林(育単→育単)では 主伐の売上で再造林経費を賄えているのか？

- 主伐の売上で再生産のための造林・育林の経費を賄えているか？
- 再生産の経費を差し引いて、利益が得られているか？
- 補助金なしで林業は成り立つのか？

8

## 林業の現在地 – 国有林の立木販売(主伐)の例 シカ柵なし

	単位	岡山-1	岡山-2	広島
面積	ha	5.73	6.35	4.69
販売時点の林齢	年生	57	54/60	59
材積	m <sup>3</sup>	1,945	3,299	2,210
面積当たり材積	m <sup>3</sup> /ha	339	519	471
樹種比率	スギ:ヒノキ	5:95	12:88	0:100
販売単価	円/m <sup>3</sup>	7,451	5,268	4,988
販売単価 (A)	千円/ha	<b>2,529</b>	<b>2,737</b>	<b>2,351</b>
地拵単価 (a)		205	525	456
植付単価 (b)		707	690	302
防護柵単価 (c)		-	-	-
下刈単価(137千円/ha回×5回) (d)		<u>684</u>	<u>684</u>	<u>684</u>
経費合計 (B)=(a)+(b)+(c)+(d)		<u>1,596</u>	<u>1,899</u>	<u>1,442</u>
差引 (C) = (A) - (B)		<b>933</b>	<b>838</b>	<b>909</b>
差引 地拵省略 (C) + (a)		<u>1,138</u>	<u>1,363</u>	<u>1,365</u>
差引 地拵省略・下刈2回		<u>1,549</u>	<u>1,774</u>	<u>1,776</u>

※斜体・下線の数字は試算値、それ以外は契約ベースの実績値(経費は間接費込み)。

9

## 林業の現在地 – 国有林の立木販売(主伐)の例 シカ柵あり

	単位	兵庫-1	兵庫-2	広島北部
面積	ha	3.51	9.00	6.53
販売時点の林齢	年生	58-62	59-62	55
材積	m <sup>3</sup>	1,550	4,416	3,052
面積当たり材積	m <sup>3</sup> /ha	442	491	467
樹種比率	スギ:ヒノキ	14:86	100:0	49:51
販売単価	円/m <sup>3</sup>	6,840	3,317	4,077
販売単価 (A)	千円/ha	<b>3,021</b>	<b>1,620</b>	<b>1,905</b>
地拵単価 (a)		264	307	256
植付単価 (b)		645	558	437
防護柵単価 (c)		2,018	755	896
下刈単価(137千円/ha回×5回) (d)		<u>684</u>	<u>684</u>	<u>684</u>
経費合計 (B)=(a)+(b)+(c)+(d)		<u>3,611</u>	<u>2,304</u>	<u>2,273</u>
差引 (C) = (A) - (B)		<b>-590</b>	<b>-684</b>	<b>-368</b>
差引 地拵省略 (C) + (a)		<u>-326</u>	<u>-377</u>	<u>-112</u>
差引 地拵省略・下刈2回		<u>85</u>	<u>34</u>	<u>299</u>
差引 地拵省略・下刈2回 防護柵なし		<b>2,103</b>	<b>789</b>	<b>1,195</b>

※斜体・下線の数字は試算値、それ以外は契約ベースの実績値。

10

## 今後の対応方向 - 1

- 立木価格の向上
  - 生産性向上の支援
    - 主伐:現在5.4m<sup>3</sup>/人日 → 目標:11.1m<sup>3</sup>/人日 (H37)
    - 間伐:現在4.2m<sup>3</sup>/人日 → 目標: 8.2m<sup>3</sup>/人日 (H37)
  - 作業システムの改善
    - 作業月報の作成・提出
      - 目的:工程間のアンバランス、ボトルネックを抽出し、解消する
    - 作業システムに関する現地検討会の開催
  - 販売環境の改善
    - 路網の整備
      - 生産現場における林業専用道の整備による集材距離の短縮
        - 林内車道密度 現在 13.7m/ha → 目標 25m/ha (H37)
        - 平均集材距離 現在 854m → 目標 300m (H37)
    - 中間土場の設置
      - 10t積み車が山土場まで入れない現場における運搬効率の向上
      - 大型トレーラーに対応して運搬コストを削減

11

## 今後の対応方向 - 2

- 育林の低コスト化の徹底
  - 一貫作業システムの効率向上支援
  - 立木販売における一貫作業システムの推進
  - 省略した下刈の検証と回数のさらなる削減
  - シカ防護柵の低コスト化
- 技術情報の提供
  - 技術セミナーの開催
  - 現地検討会のオープン化
- 事業者の経営安定化への貢献
  - 請負事業の複数年契約の推進
  - 林道事業における国庫債務負担による複数年契約

全ての課題について、  
民有林を含めた地域全体の「林業の成長産業化」を目指して対応。

12

# 林業事業体の皆様へ

- 「もうかる林業」が林業の産業としての自立、そしてその後の成長産業化への第1歩。
- 安全で労働生産性、効率性の高い事業体となることによって利益を産み、志の高い優秀な人材を引きつけて好循環に、そして林業全体の地位を向上させる。  
→ 若者が就職したい職場へ！
- 近畿中国森林管理局は、今後も様々な取組を通じて地域の「林業の成長産業化」に貢献します。

13

